

## 2 結果の概要

### (1) ペーパーテスト

・今回調査した内容について、基礎的・基本的な知識・技能についてはおおむね身に付いているが、一部に課題となる力もみられた。

<教科別具体事例> ( :十分身に付いている力 :課題となる力)

国 語	話の内容を考えながら正しく聞き取る力や、登場人物の心情を読み取る力、漢字を正しく読む力など 漢字を正しく書く力など
社 会	基礎的な知識としての産業や歴史に関する用語の理解や、基本的な地図やグラフを読み取る力など
算数、数学	世紀など時代区分の理解や歴史上の主なできごとが起きた場所の地図上での表現など 簡単な四則計算の技能、展開図を組み立てたときの位置関係の理解、一次方程式と連立方程式を解く力など
理 科	比例において対応する変数の値を求める力など 生物の体のしくみについての知識・理解や、安全に観察、実験を行う技能や、正しく測定値を読み取る技能など
英 語	消化、溶解度、水溶液、圧力といった科学的な言葉についての知識・理解 具体的な内容や概要や要点を正しく聞き取ったり、読み取ったりする力など 英語の問いかけに正しく応答したり、正しい語順で書く力など

・課題となっていた「文章、資料、図表等を深く読み取る力」や「学んだことを活用しつつ、論理的に考察し、自分の考えを適切に表現する力」等、思考力、判断力、表現力については、各教科とも改善の成果がみられるが、今後も引き続き充実を図っていく必要がある。

<教科別具体事例> ( :課題となる力で改善がみられる力 :一層高めていく必要がある力)

国 語	グラフや表・資料を読んで考えたことを、根拠や理由を明らかにして決められた字数で書く力など 目的や様式に応じて必要な内容を選んで書く力など
社 会	情報を基に略地図をかいたり、計算してグラフに表現したりする力、外国とのかかわりで時代の大きな流れをとらえる力など 複数の資料から読み取ったことを基に自分の考えを記述する力など
算数、数学	文字を使った式の意味を読み取る力など 面積の求め方を考える力、整数の性質を文字を使って説明する力、表やグラフに示された数量の関係を式で表現する力など
理 科	観察、実験の結果を基に、目で見えないものの変化を考察する力や、見いだした規則性を活用して、実際の生活でみられる事物・現象を文章で説明する力など 条件を統一して実験を計画する力や、結果を考察し、モデルや文章、数式、化学式等を使い適切に表現する力など
英 語	身近な内容について書くべき内容を自分で考え、まとまりのある英文を書くことができる力など 会話の流れや文脈から、話し手や書き手の意向を理解して適切に応答する力や、内容が正しく伝わるように、正しい文構造で適切に表現する力など

#### 【教科別改善の方向】

国 語	目的や意図に応じて書く事柄を整理し、様式に応じて文章全体の展開を想定して書いたり、それをもとに交流したりする機会の充実、学習した漢字を繰り返し書いたり使用したりする機会の充実
社 会	問題解決学習の充実を図り、課題に対して様々な資料から読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら自分の考えを記述し、伝え合い、考えを深める機会の充実
算数・数学	算数的活動や数学的活動を通して実感的な理解を図る機会の充実、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、表現したり、説明したりする機会の充実
理 科	観察、実験の結果を表やグラフなどに表す過程を通して考察し、科学的な言葉を使い表現する機会、日常生活との関連を重視し実感を伴った理解を図る機会の充実
英 語	具体的な場面を設定し、目的を明確にした言語活動の充実、繰り返し練習と実際の活用を通じた技能と言語材料の着実な定着、多様な表現に触れる言語活動の充実

## (2) 質問紙調査

「努力して勉強しなければならない」については、「そう思う・どちらかというと思う」の割合は、4年連続して増加している。

・「勉強が好き」「勉強は大切だと思う」「勉強する意欲がある」「学校の授業が分かる」については、「そう思う・どちらかというと思う」の割合は、昨年度と比べ微減している。

・約9割の児童生徒が「勉強は大切である」を選択している。

・約8割の児童、約7割の生徒が「勉強する意欲がある」を選択している。

・約7割の児童、約6割の生徒が「学校の授業が分かる」を選択している。

「家庭で計画を立てて学習をする」「家で手伝いをしている」「家の人からほめられたり励まされたりする」児童生徒の割合は、昨年度と比べ増加している。

授業において「楽しいと感じるとき」として、どの教科においても「できた」「分かった」と実感をしたときを選択した児童生徒の割合が高い。

「ペーパーテストの結果」との相関から

・「ふだんから計画を立てて家庭での勉強をしている」など、学習習慣が身に付いている児童生徒ほど、正答率が高くなる傾向がみられる。

・「家の人とよく話をする」「家の人からほめられたり、はげまされたりする」など、家族とのコミュニケーションや触れあいのある児童生徒ほど、正答率が高くなる傾向がみられる。

### 【今後の指導の方向】

・一人一人が教科の学び方を身に付け、「できた」「分かった」と実感できるよう、教材や指導過程の工夫、評価の充実など魅力ある授業に努め、学習意欲の喚起を一層促す必要がある。

・家庭においても、規律ある生活をする習慣や計画を立てて主体的に学習する習慣を身に付けるよう、学校と家庭とが連携して指導を継続する必要がある。

## 3 結果の活用

結果分析を踏まえ、次の各点から学校、家庭、市町村教育委員会、県教育委員会が連携を図りながら、指導の改善を具体的に推進する。

### (1) 県教育委員会の取組

結果分析を進め、指導改善の具体的な事項と併せて、「調査結果の分析と指導方法の改善」として本冊子にまとめ、全市町村教育委員会、全学校へ送付し、指導の改善に資する。(5月) 学校訪問時に、各学校の結果分析に基づく課題の解決のための指導計画や指導方法の改善について指導・助言する。

教育課程講習会や小・中教科研究会等の場で県全体の分析結果の説明をするとともに、十分に付いていない内容についての指導の改善等についての具体的な指導・援助をする。

明らかになった課題を踏まえ、「学力向上推進事業」や「英語力向上アクションプラン」等により、その克服のための具体的な事業を展開する。

学力向上推進事業「授業改善推進プラン」において、岐阜県の学習状況調査で課題となっている内容について、それを克服するための実践的な「授業改善カリキュラム」を作成し、県内各学校の授業改善に資する。

算数・数学セミナー等、学力向上推進事業において実施する、児童生徒対象の個性を伸ばすための教科別事業への参加者の拡大と成果の普及を図る。

本調査の結果分析を、これまでの学力向上フロンティア事業、学習指導カウンセラー派遣事業の成果をまとめた冊子の活用と併せて、指導の改善に生かす。

岐阜県総合教育センターが作成した「教育用コンテンツ」の実践的な活用・普及を図る。

### (2) 市町村教育委員会における活用

< 学校への指導と市町村独自の学力向上施策への活用 >

各市町村が実施している学力向上に関する諸施策に調査結果を反映させ、学校への指導に生かす。

学校訪問時に、各学校の結果分析に基づく課題の解決のための指導計画や指導方法の改善について指導・助言する。

### (3) 学校における活用

#### < 児童生徒への個別指導の徹底 >

個人カルテを活用し、つまずき克服のための指導を徹底する。

学習状況診断票を活用し、児童生徒が自ら学習状況の自己評価と改善に取り組む。

#### < 学校の指導計画・指導方法の改善、保護者等への説明と協力依頼 >

学校ごとにつまずきの内容等を分析し、指導内容の重点化と教材の精選を図った指導計画の改善を行うとともに、少人数指導の質的改善を図る等の指導方法を充実する。

中学校区ごとに小・中学校が連携し、学習状況調査の結果に基づく学校間の接続の研究と授業交流を活発に行い、授業改善を図る。

学校では、各教科を学ぶ意義や学び方、家庭学習の内容・進め方について指導するとともに、家庭では、保護者が家庭学習を見届けたり、親子読書による読書の推進を図ったりするなど、家庭や地域と一体となって「家庭学習」や「基本的な生活習慣」「読書習慣」の確立を図る。

#### < 本冊子の具体的な活用方法 >

##### [管理職・指導部長]

以下の箇所について複写し、該当学年の学級担任もしくは教科担任へ配布する。

(「岐阜県総合教育センターHP 教科教育等 学習状況調査」に掲載されている本冊子の電子データをダウンロードして配布することも可能 <http://www.gifu-net.ed.jp/gec/>)

(1)各教科の結果・分析の概要 (2)各教科の「分析」「結果」

以下のように[教科部会・学年会]において自校分析の実施とそれを基にした今年度の実践を推進する。

必要に応じて学校評価や保護者等への説明・協力依頼に活用する。

##### [教科部会・学年会]

自校の結果(前年度の3月に「分析・活用ファイル」にて明らかにした課題となる設問)について「(2)各教科の「分析」「結果」」の記述を参考にして、該当学年・教科の指導計画・指導方法の改善点を端的にまとめる。

(具体的な指導計画・指導方法の改善例については、各教科・学年ともに、「(2)各教科の「分析」「結果」 3 分析を踏まえた指導の改善」の下段に以下のような例示がなされているため、必要に応じてダウンロードして実践の参考にする。)

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16～H18)及び授業改善推進プラン(H19・H20)」を参照する。( <http://www.gifu-net.ed.jp/gec/> )

例 : 平成17年度 学力向上P」授業改善 第1学年

各時代の特色の明確化と中心となる認識に向けた単元の組織化に取り組んだ実践

例 : 平成20年度 授業改善推進プラン 第1学年

複数の資料を活用し、思考と認識を深める指導方法の改善に取り組んだ実践

関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、P87意識調査結果を参照する。

中学校第1学年社会の授業において、生徒が楽しいと感じるのはどんなときか。

第1位:先生の説明を聞いて新しい事実が分かったとき 第2位:自分で疑問が解決できたとき

現在の指導計画へ改善点を朱書きするなどして指導計画を改善するとともに、教科指導の具体的な改善方法を明確にして、[学級担任・教科担任]が実践に移すことができるようにする。

今年度2月下旬から3月初旬にかけて配布予定の「分析・活用ファイル」において、自校の結果分析を行い、成果と課題を検証する。

##### [学級担任・教科担任]

改善した指導計画と指導方法をもとに今年度の実践を積み上げる。

今年度1月に実施予定の「平成21年度 岐阜県における児童生徒の学習状況調査」において課題となっている力の改善状況を検証する。

個人カルテを活用し、つまずき克服のための指導を徹底する。

(資料編 (4)個人カルテ活用の仕方 参照)